The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	海洋訓練
Author(s)	畠中, 彬
Citation	makoto. 1980, 32, p. 7-8
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86097
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

海洋訓練

大阪府立青少年海洋センター
主幹　畠中　彬

〝リーダー、このロープどう結ぶの？〟〝この船ホンマに浮くの？〟と、とにかくにぎやかである。はじめて見るヨットを目の前にして今リーダーからひとおりの説明を聞き、組立ての作業に入ったところである。子どもたちにとって、ここでのヨットやカッターは全てはじめての体験である。それだけに彼らの目は輝いている。しかし彼らは単なる興味や好奇心だけでは海のプログラムは楽しめないということも体験的に知らされるのである。

自分たちの組立てたヨットに乗込んで海へ出た子どもらは、説明を思い出し自分たちの力だけでヨットを操縦せねばならない。カジをどうとり、帆をどう

出すのか？　そういうことを実際に体験しながら学んでいく。しかも失敗は即転覆につながる。

急に突風がきてヨットは傾く、急に走り出す――。子どもらは顔色をかえ〝キャー〟〝どうするの〟と叫ぶが海の上、誰も助けには来ない。自分の力で危機をのりこえるしかない。そこが海のプログラムの厳しさである。子どもたちは陸の上ではめったに感じることのない危機感、不安感を身をもって体験するのである。意識と行動のちがいを知らされるのである。

この海洋センターが大阪の南部岬町淡輪にオープンしたのは昭和五十年の夏であった。それまでに大阪府下の青少年のための野外活動施設としては、能勢に大規模な野外活動センターがあった。この山の施設に対し海の施設として海洋センターが設置されることになり、比較的水のきれいな淡輪の地が選ばれた。

ここでは青少年が仲間とともにいろんな海洋活動を行い海のふしぎさ、美しさ、楽しさ、厳しさなどを体験できるよういろんな設備やプログラムが準備されている。建物は大きな船の型をまねて作られており、そのため廊下は複雑でせまいが部屋から海をながめるとまるで船室にいるようである。生活は規則正しく、朝夕には甲板にあたる〝つどいの広場〟で旗上げ、旗下しが行われ、高いマストに団体旗や気象旗、国際信号旗などが上げられ船のムードを高める。

海のプログラムは船が主体である。多くの子どもたちが力を合せてこぐカッターが十隻ある。十二人でこぐ大型が三、六人でこぐ小型が七。このカッターに乗る以上、どんな子も勝手な行動は許されず、艇長の号令に従わねばならない。一人一人番号をつけられ、ライフジャケットを身につけて〝〇番乗艇します〟と大きな声でいってカッターに乗込む彼らの顔は真剣そのものである。艇長の号令のもと大きなカッターが動き出すと〝ワァー進んでる！〟と彼らは感激する。ヨットもいろいろある。最も小さい「OP」と呼ばれる、子どもなら二人、大人なら一人しか乗れないもの、大人三一四人が乗れる中型ディンギーと呼ばれるもの、子どもなら二一三十人は乗れ、台所やトイレもついた大型モーターセーラーなど大小あわせ五十一隻のヨットがある。そしてこれらのヨットやカッターが安全に楽しめるよう指導したり、監視したりするエンジン艇、モーターボートなど各種あわせて十六隻ある。

この世の中に絶対ひっくりかえらない船なんてありはしない。しかし海洋センターでは絶対に水難事故を出すことは許されない。海のプログラムは利用者にとっても厳しいがそれ以上にスタッフにとってはより厳しいものである。

船だけでなく広く海の自然に親しませるためいろんな海洋学習もできる。磯へ出て海草や貝や魚をとってきて名前をしらべたり標本を作ったり飼育するなどいろんな作業をとおして海に親しませる。又海底の状況や海水の様子や潮の流れなども観測する。わずかの磯になんと多くの生物が生きているのかを知って彼らは驚く。海水も川のように流れているのを知って彼らは驚く。そういう彼らを見るとつくづくこういう施設の大切さ、必要さを痛感する。しかしながら一年間にこの海洋センターを利用できるのは五万人たらずである。これはおそらく現在の大阪府の青少年人口の数パーセントにすぎないであろう。しかも利用するためには数カ月前から申し込まねばならない。夏の七、八月にいたってはその年の三月に抽選で決めるという厳しい現実である。

最近の調査結果によると大阪府下にはほとんど自然の海岸が残っていないという。現にこの海洋センターも自然の海岸をこわし埋め立てた土地の上にある。

海岸はコンクリートとテトラポットでおおわれている。海の水も時には赤潮のためコーヒーのようになる。ある日はゴミだらけの海となる。そんな海で一時間や二時間カッターやヨットに乗って本当に海を体験したことになるのだろうか？　という疑問が時々我々の心をかすめる。

しかし今の子どもたちにとってはそれでも貴重な体験であるかもしれないし、そのきたない海も又現代の自然のひとつなのかもしれない。

府政だより

大阪府衛生部では次の主な行事が行われる予定です。

○薬と健康の週間　期間　10月17日～23日
○目の愛護週間　期間　10月10日～16日
○麻薬覚せい剤禍撲滅運動　期間　10月～11月
○狂犬病予防月間　期間　10月中
○寄生虫病予防旬間　期間　11月21日～30日
○精神衛生普及月間　期間　11月中
○冬期の献血者減少期における啓発　期間　12月
○食品及び添加物等の年末一斉取締　期間　12月

編集後記

☆今年は冷夏に明け暮れし、深刻な冷害をもたらしました。冷害地の方々には心からお見舞申し上げます。

☆大変お忙しいなか、本誌のため時間をさいて執筆頂きました諸先生方にお礼を申し上げます。

☆表紙の写真は当協会着本阪南出張所長が河内長野市、観心寺で写したものです。

はぎ
ニコマートFT2
ニッコール50ミリ
F8　1/125
SSフィルム